

日本全国あちこち探索

# またもや房総「地磁気逆転」

- 目 次 -

月崎林道 1 号線

地磁気逆転層



## 日本全国 あちこち探索

(またもや房総:「月崎林道1号線」)



小湊鉄道「月崎駅」

またまた千葉にやってきました。今年は千葉にドハマリで、こんなにも不思議な所があったのかと、訪れる度にあらたな発見に驚かされます。今回の本命は地磁気逆転層、その前に立ち寄ったのは小湊鉄道の[月崎駅](#)です。ここは、房総の神秘を探る拠点ともいえる場所でした。駅前のトイレは広くて立派、小湊鉄道の保線員の詰所だった小屋は[森ラジオステーション](#)という苔とシダに覆われたアート作品になっていて、イベント開催時の拠点ともなっているようです。道を挟んだ反対側の正面にはヤマザキショップがあって、ちょっとしたおやつも仕込めます。

今日は8月30日。8月に入って雨の降った日は26日を数え、さらに太平洋上には台風15号が迫っていて、今日は久しぶりの貴重な晴れ間です。ここにやってきたからには寄らない訳に行かないのが月崎林道1号線で、カンボジアの熱帯雨林に埋もれた古代神殿を彷彿(ほうふつ)させる素彫りトンネルに出会えるという噂です。

月島林道1号線へは、いちばらくオードの森公園に車を駐車して、そこから歩いて向かいます。林道は沢沿いにあり、両側は尾根にぐるりと囲まれていて、別の世界に迷い込んだような不思議な感覚が込み上げてきます。あたりを飛び回っている小さな虫は虹色の配色で、千と千尋の神隠しの現場に立ち会えたような気分です。家に戻ってから昆虫図鑑で調べてみれば、この小さな虫の名前は「[ハンミョウ](#)」([斑猫](#))。別名「ミチシルベ」(道しるべ)とも呼ばれていて、まさしく目的地である神殿への道案内をしてくれているようです。

ゆっくり歩いて20分、それまで開けていた周りの様子も草木生い茂る鬱蒼(うっそう)とした林に変わり、どことなく心細くなってきます。しかしながら、道の両脇には薄紫色の[山アジサイ](#)や[名前の知らない黄色い花](#)が咲いていて、奥へ奥へと引き込まれてしまいます。この黄色い花はおそらく「キツリフネ」(黄釣船)。花言葉は「私にさわらないで!」。千葉県では危急種に分類されている大切にしなければならない植物のひとつです。

さらに先へ進むと、前方に突如(とつじょ)現れたのはトンネルです。真ん中の天井が抜けていて、上から神秘的な光が射し込んでいます。これこそまさしく噂に聞いていた[月崎1号線トンネル](#)、興奮度はピークに達します。しばし入り口の前にたたずんで、感動をしっかりと体に染み込ませます。



月崎林道1号線



「ハンミョウ」([斑猫](#))/別名:ミチシルベ



## 日本全国 あちこち探索

(またもや房総:「地磁気逆転」)



「地磁気逆転層」

だいぶ道草をしましたが、ようやく本命の地磁気逆転層に向かいます。場所は月崎駅から道なりに約2km、車を使えば数分の所です。付近にはゴルフ場が密集していて、羽田に帰る飛行機から地上を見ると、あちこちらを爪で引っかいたような**異様な景色**が確認できます。

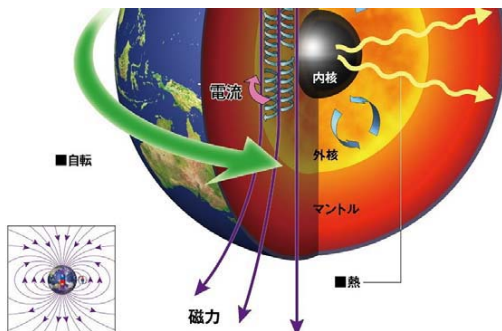
ところで、「地磁気逆転」ってなんでしたっけ！ そもそも**地球の磁場**は、地球内部の外核(鉄・ニッケルを多く含むどろどろの液体)が、対流することによって電気が発生し磁場が発生していると考えられています。右手を握って電流と磁場の方向を教わったのは、確か中学のとき。理科の期末テストで、鉛筆を持ち返ることなく左手でグーを握り、間違えたのを明確に覚えています。

外殻の流れは、地球の自転によって引き起こされるものだけでなく、局所的な熱対流もあちこちに発生していて、一筋縄ではいかないようです。しかも、360万年前から現在までに少なくとも11回地磁気の方法が逆転しているということで、そのメカニズムは不明です。

そうこう思いを馳せている内に、市原市田淵の田淵会館につきました。横の駐車場に車を止め、さっそく地磁気逆転層の場所を目指します。道は途中まで舗装されていて、その先も案内板がしっかり設置されているので迷うことはありません。川に出てからは、長靴に履き替えて川の中を歩きます。[「地磁気逆転層へのアプローチ」](#)

地磁気逆転層の目の前に到着しました。何の変哲も無い崖に、ハンマーやドリルで削り取った跡があり、色分けされたたくさんの杭が打ち付けられています。赤の杭は地磁気が逆転していたころの断層で、横に走る窪んだ層は77万年前を特定する木曽御嶽山の噴火の跡、**「白尾火山灰層」**というものらしいです。

人類歴史年表を見れば、この時代是北京原人やジャワ原人が闊歩(かつぽ)していた頃、人類がマンモスを追い掛け回していた光景が目には浮かびます。マンモスが絶滅したのはその後で、原因は、氷河期末期の温暖化に伴う植生の変化と人類による狩猟説が有力です。



[地磁場発生仕組み](#) (引用:Science Window)



[白尾火山灰](#)





またもや房総:「地磁気逆転」  
2017年9月27日  
著者:梶原正範  
Mail:hanadayori@okinawa.zaq.jp